

季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌



美野里短歌クラブ

サクサクと西瓜類張る孫の顔ハムスターかな前歯が二本
高齢者免許更新乗りあげてすぐにブレーキ踏みてクリアす
老い猫は食事の後に薬のみ今日も窓辺で横たわるのみ
夏の夜の火花美しその技術受け継ぐ人の心讃えん
赤とんぼ見かけることの多くなり猛暑の中に秋の気配す

小川短歌会

老いかさね徐々に体力弱れどもこころの糧と短歌詠みゆかん
並び立ちうすき後頭部見する時フラッシュひかる謝罪会見
老い夫の車椅子押す祭りの日お菓子釣れたねほっこり笑顔
ふとふれし手のぬくもりがいとおしき老いてもときめくわが胸のうち
忙しいといいつつ娘秋彼岸昨日も今日もご馳走もち来る

玉里短歌会

渥美半島の入江に潮満ちなでしこは波にあそぶる潮の引くまで
筑波嶺に檜の立ち枯れふえてきて若葉の春の眺めを憂う
「熱中症注意」の広報響きたり台風近づくと雨降る朝も
青春の遠き思い出「赤と黒」胸さわぎしき隣の人に
鎌を手に母と一緒に草刈りしうまく出来なかつた十歳の夏

鶴	石	野	松	高	中	佐	小	幡	石	白	破	宇	菱	菱
町	橋	口	田	田	根	藤	川	谷	田	根	谷	都	沼	沼
文	吉	初	通	久	良	正	ヒ	啓	は	清	き	和	友	清
男	生	江	喜	子	子	正	ロ	子	る	香	え	子	江	子

みづうみ俳句会

新米載せハンドル握る誇らしさ
里山を彩るそばの花見頃
出入口ぎいと鎖すや秋の暮
新米の胡麻塩むすび他はいらぬ
栗入りの和菓子の味の名菓かな

みのり俳句会

川幅を狭めて中州芦の花
残暑とは名ばかりなりし暑さかな
柔かき道後の温泉かな白木槿
涼風のここだけにある昼休み
終い湯に一人楽しむ虫の声

櫻の会

秋風や玉留ほざる紅の糸
お日様のこぼるる丘の花芒
箆筒押し入れきのうの暑さしまいをり
なごり惜しなごり惜しとや法師蟬
みつからぬ一語のままに椅子は秋

くるみ俳句会

古民家の馬小屋ひそと秋気満つ
秋夕焼母の笑顔を思い出す
忽然と地球を割って万珠沙華
文添えて欠席知らず秋の会
葉隠れの目立たぬ柿も赤くなり

たまり俳句会

診察を待つ間の長し濃竜胆
朝日なか紫煙くゆらせ初紅葉
健やかな米寿をめざし葛の花
米寿なる兄の丹精今年米
誘眠にお猪口一杯ざくろ古酒

小美玉川柳会

フラメンコ猫が驚き尾を立てる
光の輪そのまま居ると無理な声
俺の顔生きざま刻む証明書
ボランティア骨身惜しまず光る汗
ふるさとの空き家続きに蝉時雨

江	枝	小	橋	石	矢	松	野	鶴	ま	堀	福	城	信	小	木	石	岡	村	矢	白	島	佐	友	塚	長	長	榎	三	長	
戸	川	林	本	井	口	田	口	町	め	内	内	垣	田	原	村	田	島	田	口	根	田	藤	水	田	島	島	本	村	島	
忠	白	岳	昇	昭	友	通	初	文	す	い	邦	睦	菊	エ	小	敏	禮	妙	富	清	草	清	文	江	清	久	喜	れ	美	
男	水	悠	丘	夫	子	喜	江	男	け	づ	誉	子	女	ミ	夜	江	子	子	久	香	心	子	江	江	昭	子	子	子	子	子